

【一】 次の各問いに答えなさい。

問一 ①～⑤の——線部の読みをひらがなで答えなさい。また、⑥～⑩の——線部を漢字に直しなさい。

- ① 郷土の歴史を調べる。
  - ② 額の汗をふく。
  - ③ 破損した家を修理する。
  - ④ 表情から事情を察した。
  - ⑤ 農作物の貯蔵庫。
- 
- ⑥ 鳥の鳴き声をロクオンする。
  - ⑦ おイワいのプレゼントを選ぶ。
  - ⑧ 中学校のセイト。
  - ⑨ 同点のまま試合がエンチヨウされた。
  - ⑩ 日本の夏はムし暑い。

問二 (1)～(3)の問いに答えなさい。

(1) 次の①、②の文章の( )に入る表現として正しいものを後のア・イから選び、記号で答えなさい。

- ① 竹取物語は、今に伝わる日本で最も古い物語だが、童話「かぐや姫」としてもなじみ深い。  
つまり( )。

- ア 竹取物語は、私たちには面白さの理解できない作品だ  
イ 竹取物語は、私たちにとって身近な古典作品だ

② 日本語では「兄」と「弟」は明確に区別されていますが、英語では兄も弟も「brother」と言います。また、日本語では男女や年齢ねんれいを問わず「いとこ」と呼びますが、ベトナム語では男性で年上のいとこは「anh hoj」、女性で年上のいとこは「chi hoj」、年下のいとこは男女とも「em hoj」と言うそうです。これらのことから、( )  
ということが言えます。

ア 言語によってものごとの区切り方は異なる

イ 日本語では年上か年下かが重要視されている

(2) 次のAの文章を読み、Bの文が正しいか正しくないかを選びなさい。

《文章A》

日明貿易にちみんは、遣唐使けんとうの派遣はけんが中止されて以来途絶とだえていた中国との交流を、室町時代に足利義満が再開したもので、その際、海賊かいぞくと正式な貿易船とを区別する目的で明から勘合かんごうという札あたが与えられたために、勘合貿易とも言われています。この時の主な輸出品は銅、硫黄いおう、刀剣とうけんなどで、輸入品は銅銭や生糸きいとでした。

《文B》

日明貿易では、海賊と正式な貿易船を区別するために日本が発行した勘合が用いられた。

ア 正しい

イ 正しくない

(3) 次の文章を図に表したものととして、適切なものはア・イのどちらですか。記号で答えなさい。

明治初期の廃藩置県はいはんちけんで置かれた県は後に統合され、日本の行政区域は大きく変わった。

たとえば「筑前国」ちくぜんのかくににあった県が「福岡県」ふくおかに、「筑後国」ちくごのかくににあった県が「三潴県」みづまに、「豊前国」ぶぜんのかくににあった県が「小倉県」こくらにそれぞれ編成された。五年後の第二次統合で「福岡県」「三潴県」と「小倉県」の一部が統合され「福岡県」が成立した。

ア

国名	第一次統合・県名	第二次統合・県名
ちくぜん 筑前	ふくおか 福岡	福岡
ちくご 筑後	みづま 三潴	
ぶぜん 豊前	こくら 小倉	おおいた 大分

イ

国名	第一次統合・県名	第二次統合・県名
筑前	福岡	福岡
筑後	三潴	
豊前	大分	小倉

【二】次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

植物の場合はどうだろう。

動物の世界では、よく似た生物種<sup>①</sup>がニッチを棲み分けている例がよく見られる。しかし、植物の世界を見ると、森にはたくさんの木々が生い茂<sup>しげ</sup>っているし、野原にはたくさんの花が咲き乱<sup>ざ</sup>れている。そして、同じ資源である光や水を利用している。

このように、植物の場合は一見すると、同じところにたくさん植物が生えていて、動物のように、どのようニッチをずらしているのかは明確ではないことが多い。しかし、さまざまな植物が共存しているように見えても、植物もまたガウゼの法則に従って、それぞれ居場所を分け合っていると考えられている。

たとえば、木々が生い茂っているように見える森も、森の上の方に葉を茂らせている高い木と、森の下に広がる空間に葉を広げる低い木、そして、森の底で木漏れ日<sup>こも</sup>を受けながら生えている草、というように空間を棲み分けている。

どこにでも生えているように見える雑草だが、よく観察してみると生える場所は決まっている。道ばたに生えている雑草と、公園に生えている雑草はよく見ると種類<sup>ちが</sup>が違<sup>ちが</sup>う。また、同じ道ばたでもよく踏まれる歩道の真ん中と、踏まれ方が少ない道の隅<sup>すみ</sup>と、まったく踏まれない道の外側では、生えている雑草が違<sup>ちが</sup>う。こうして環境<sup>かんきょう</sup>によって棲み分けている。雑草は何気なく、どこにでも生えているわけではないのだ。<sup>②</sup>

同じように生えていても、ニッチを棲み分けている例は見られる。

ハルジオンとヒメジョオンは、姿の良く似た雑草である。しかも、同じような場所に生えているので、なかなか見分けることができない。このハルジオンとヒメジョオンは、共に北アメリカ原産の外来の植物である。

この二種は、同じような場所に生えているので、ニッチが重なっているように見える。しかし、ハルジオンとヒメジ

ヨオンは、時期をずらしている。

ハルジオンとヒメジオンの場合は、ハルジオンが春に咲く。そして、その後の初夏から秋に掛<sup>か</sup>けてヒメジオンが咲くというように、ニッチをずらしていると考えられている。

次にタンポポの例を見てみよう。

よく知られているように、タンポポには外国からやってきた外来の西洋タンポポと、昔から日本にある在来<sup>在来</sup>の日本タンポポに大別される。実際には、西洋タンポポと呼ばれる中に、セイヨウタンポポやアカミタンポポなどいくつかの種類があり、日本タンポポの中にもカントウタンポポやカンサイタンポポなどいくつかの種類があるが、ここでは単純に「西洋タンポポ」、「日本タンポポ」と表現することにしよう。

外来の西洋タンポポは、勢力を拡大している。これに対して、在来の日本タンポポはだんだんと数を減らしている。そのため、西洋タンポポが<sup>あつとう</sup>圧倒して、日本タンポポが追いやられているように見られることもある。

しかし、実際は少し違う。西洋タンポポと日本タンポポとは棲<sup>すま</sup>むニッチが異なるのである。

③ 西洋タンポポと日本タンポポの特徴<sup>とくちょう</sup>を比較<sup>ひかく</sup>してみることにしよう。

まず、種子のサイズは西洋タンポポの方が小さく軽い。タンポポは風で種子を飛ばすから、種子が小さい西洋タンポポの方が、より遠くまで種子を飛ばすことができる。種子が小さいので、その分、種子の数を多くすることができる。

そのため、西洋タンポポの方が、日本タンポポよりも種子数が多いのである。

④ また、日本タンポポは、ハチやアブなどが花粉を運んでこないと種子<sup>たしよく</sup>ができない他<sup>たしよく</sup>殖性であるのに対して、西洋タンポポは自分だけで種子を作ることができる自殖性である。そのため、仲間がいなくても、ハチやアブなどの昆虫<sup>こんちゅう</sup>がいなくても、一株だけあれば種子を作ることができるのだ。

それだけではない、日本タンポポは春にしか咲かないのに対して、西洋タンポポは一年中、花を咲かせることができる。

そのため、西洋タンポポは次から次へと花を咲かせ、次から次へと種子を作って、バラまくことができるのである。こうして見ると、どうも西洋タンポポの方が、日本タンポポよりも繁殖力はんしよくが旺盛おうせいで、強い感じがする。西洋タンポポが大繁殖して、繁殖力の弱い日本タンポポを追いやっているイメージも納得できる。

しかし、実際には違う。日本タンポポには日本タンポポの戦略があるのである。

タンポポを指標とした「タンポポ調査」と呼ばれるものが、よく行われている。西洋タンポポは都市化したところに多く分布する。これに対して、日本タンポポは、自然の残った田園地帯こうがいや郊外によく見られる。そのため、西洋タンポポと日本タンポポの分布を見ると、環境が都市化しているかどうかかわるのである。

じつは、日本タンポポは自然が豊かで、他の植物が生えているところでは有利さを発揮する。たとえば、日本タンポポは西洋タンポポよりも種子が大きい。確かに遠くまで飛ばすという点では大きくて重い種子は不利である。しかし、大きくて重い種子からは、大きな芽を出すことができる。これは他の植物の芽生えと競って伸びるためには、必要なことだ。さらに、他の花の花粉と交配することで、バラエティに富んださまざまな子孫を残すことができる。多様な子孫を残すということも、多様な環境があり、さまざまな病害虫に対処しなければならぬ自然の中で生き残るには大切なことである。

そして、重要な戦略は「春にしか咲かない」ということである。日本タンポポは春に咲いて、さっさと種子を飛ばすと、根だけ残して地面から上は自ら枯かれてしまう。これは、冬眠とうみんの逆で夏に地面の下で眠ねむっているので、「夏眠」と呼ばれている。

夏が近づくと、他の植物が枝葉を伸ばし、生い茂る。そんなところで、小さなタンポポが頑張<sup>がんば</sup>っても、光は当たらず生きていくことができない。そこで、強い植物との無駄<sup>むだ</sup>な争いを避<sup>さ</sup>けて、地面の下でやり過<sup>す</sup>すのである。

ライバルが多い夏にナンバー1になることは難しいから、ライバルたちが芽を出す前に、花を咲かせて種子を残すという戦略なのである。

一方、西洋タンポポは日本の四季を知らないから、他の植物が生い茂る夏の間も、葉を広げ花を咲かせようとする。そのため、西洋タンポポは枯れてしまい、生きていくことができないのだ。同じように枯れているように見えても、自ら葉を枯らして眠っている日本タンポポはまったくダメージがない。一年中咲いている西洋タンポポに比べて、春しか咲かない日本タンポポは劣<sup>おと</sup>っているようにも思えるが、<sup>⑤</sup>実は戦略的だったのだ。

このように、西洋タンポポは他の植物が生えるような場所には生えることができない。だから、その代わりに他の植物が生えないような都会の道ばたで花を咲かせて、分布を広げているのである。西洋タンポポが広がり、日本タンポポが少なくなっているという現象は、A からだったのである。

どんな生き物もナンバー1になれるニッチがなければ生きていくことができない。

B、すべての生き物にとって、ニッチは約束された安住の地ではない。実際には、さまざま生き物がニッチを奪<sup>うば</sup>い合って競い合う。ニッチを守るためには、常にナンバー1でありつづけなければならぬのだ。

C、高校野球で日本一の栄冠<sup>えいかん</sup>に輝<sup>かがや</sup>くのは大変である。都道府県で優勝することは全国優勝に比べれば易しいが、それでも大変なことだ。市町村で優勝と言え、もう少し易しくなる。さらに町内で優勝するとすれば、ライバルはかなり少なくなるだろう。このように範囲<sup>はんい</sup>を狭<sup>せば</sup>めていけば、ナンバー1になりやすくなる。

さらに野球でまともに勝負するのではなく、打率やベースランニングの速さで競ったり、キャッチボールの正確さ

を誇<sup>ほこ</sup>ったり、少し勝負の内容をずらせば、ナンバー1になりやすい。スポーツはできなくても、プロ野球の選手の名前を誰よりも言えるというナンバー1もいるかも知れない。このように、条件を小さく細く絞り込<sup>しぼ</sup>んでいけば、ナンバー1になれるチャンスが生まれてくるのである。そして、まともに競い合うことを考えるよりも、条件をずらしながら、ナンバー1になれる場所を探した方が良い。

そのため、多くの生物は小さなニッチを確保して、それを守っている。ニッチが小さいということは、たくさん生物がニッチを分け合うことができる。

だからこそ、これだけ多くの生物が自然界に共存しているのである。

(稲垣 栄洋 『植物はなぜ動かないのか』より)

※ ガウゼの法則 —— ソ連の生態学者、ゲオルギー・ガウゼが提唱した競争排除則のこと。同じニッチにある複数の種は、安定的に共存できないという原則。

★ 問題の中で指定する字数には、句読点、かつこ類をふくみます。

問 一 —— 線部①「ニッチ」とありますが、本文を通じて読み取れる「ここで使われているニッチの意味」として最も適切なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア ある生物種が生息することのできる環<sup>かんきょう</sup>境

イ 複数の生物種が共存するのに適した環<sup>かんきょう</sup>境

ウ ある生物種とある生物種が生息する間に作られた環<sup>かんきょう</sup>境

エ どの生物種も共生することができない環<sup>かんきょう</sup>境

問二——線部②「雑草は何気なく、どこにでも生えているわけではない」とはどのようなことですか。最も適切なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア 雑草は他の雑草とちがう空間や環境を選んで生えているということ

イ 雑草はどこに生えているかでその種類が分類できるということ

ウ 雑草は自分が生存するために有利な場所をたがいにいっしょに合っているということ

エ 雑草はそれぞれの性質に適した特定の環境でしか育つことができないということ

問三——線部③「西洋タンポポと日本タンポポの特徴」として適切でないものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 日本タンポポの方が種子が大きく、遠くまで飛ばすことができない。

イ 西洋タンポポは昆虫などがいなくても種子を作ることができる。

ウ 西洋タンポポは冬でも花を咲かせることができる。

エ 西洋タンポポの方が繁殖力が強く、日本タンポポを追いやっている。

問四——線部④「日本タンポポは、ハチやアブなどが花粉を運んでこないと種子ができない他殖性である」とありますが、そのメリットを本文中より四十字でぬき出し、はじめと終わりの三字を書きなさい。

問五——線部⑤「実は戦略的だったのだ」とありますが、どのような点が「戦略的」のですか。五十字以内で説明しなさい。

問 六

A

に当てはまる表現を次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア 単に日本タンポポよりも西洋タンポポの方が戦略的である
- イ 単に他の植物が生えるような元々の日本の自然が減っている
- ウ 単に西洋タンポポが日本の四季を知らない
- エ 単に他の植物に比べて西洋タンポポの生命力が強い

問 七

B、

C

に当てはまる言葉を次のア～オからそれぞれ選び、記号で答えなさい。

- ア なぜなら
- イ しかし
- ウ そのうえ
- エ つまり
- オ たとえば

問 八

あなたは中学校に入学したら、どのような「ニッチ」でナンバーワンになりたいと思いますか。また、そのために、どのようなことを頑張りたいですか。本文の内容を踏まえて、具体的に書きなさい。

問 九

本文の内容として適切でないものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア ハルジオンとヒメジオンの咲く時期が異なるのは、ニッチをずらしているためである。
- イ タンポポには、西洋タンポポと日本タンポポという区別よりも細かい分類がある。
- ウ ナンバー1を目指すなら、自分より弱い相手しかいない場所を探すのが良い。
- エ 一つの生物が占めるニッチが大きくなりすぎると、生物多様性が損なわれることになる。

【三】次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

(ここまでのあらすじ)

東京藝術大学<sup>げいじつだいがく</sup>で、仏像の保存について研究する通称「仏さま研究室」に所属する川名まひるは、仏像を模刻するという大学の課題のため、福井県小浜市<sup>ふくいおばま</sup>の矢祭という集落を訪れている。現地では出会った石田民代さんに連れられて行った慶徳寺<sup>けいとく</sup>の仏像に心奪われ、その仏像を模刻したいと願い出た。

お昼を石田家でごちそうになり(もちろん強烈に遠慮したが、もっと強烈に勧められたのだ)、帰りの高速バスが出る時間まで本堂で観音さまを見てすごすことにした。

今度はひとりで石段をのぼる。

さっきのおばあちゃんがいた。レイコさんといったか。目が合った。

「……こんにちは」

「あなた、どっから来たの」

しゃがれた声だった。白い眉を疑り深げにしかめている。<sup>まゆ うたぐ</sup>① 反射的につくり笑いした。

「東京からです。こちらの観音さまを模刻したくて」

「もごくく?」

「も・こ・く、です。仏像を写す……同じ仏像を彫らせてもらうんです」<sup>ほ</sup>

「なんで」

「大学の課題で」

② レイコさんは顔全体をぎゅっとしかめた。顔のパーツが全部しわに埋まる。<sup>う</sup>

「なーん、不良学生のお遊びにわいらあの仏さんを使わんでほし」※

そう言うと、あたしのつま先から頭までをじろりとにらみ、吐き捨てた。

「ほんな、プリンみたいな頭しとるくせに」

「なっ……」

反論しようと一歩踏み出したとき、石段の下から「まひるちゃん」と声をかけられた。振り返ると、民代さんが魔法瓶をにかけている。

「本堂は冷えるで、熱いお茶、持ってきたんよ」

そう言うとレイコさんに会釈し、本堂に向かった。あたしが近寄ったら、民代さんはレイコさんのほうをちらりと見て声をひそめた。

③「ごめんね、気にせんで」

そして大きな声で「さあさあ、ゆっくり見んさい。旦那が帰ってきたら夕飯にしよ」と言っ魔法瓶をあたしに押しつけた。

「いやっ、夕方には帰りますから。バスの時間があるし」

④首をぶんぶん振るあたしをいなすように笑う。

「旦那が、『あの姉ちゃん帰したらあかん』言うて、電話してきたんよ。芸大たらどんなとか、話を聞きたい。帰るのは明日の朝でいいが」

隠居所として建てた離れが空いているから泊まるところは気にしなくていい、とまで言われて、ありがたく申し出を受けることにした。

民代さんのうしろ姿を見送って振り向くと、いつの間にかレイコさんは消えていた。

「——だから、話を聞いてうらは『そら、あらたの詐欺さぎど』、言うたんよ。ほしたら民代おこが怒りよって。『このホームペー  
ジ見たらわかるが』、てえ」

顔を真っ赤あかにてからせた石田氏いしだが言うと、民代たみしろさんは恥はずかしそうに、しかしけっこうな力で夫かたの肩かたをどついた。

五時ごじを過ぎて寒さむさに音ねを上げ石田氏いしだ宅たくにもどったあたしを、民代たみしろさんは温ぬかかいお風呂ふろで迎むかえてくれた。ふかふかの  
タオルと民代たみしろさんのパジャマをお借りして風呂ふろからあがると、石田氏いしだが栓せん抜き片手かたてにちゃぶ台ちゃぶだいで待ち構まちかまえていた。見  
るからに新鮮しんせんそうな刺身さしみに焼やき鯖さば寿司ずし。民代たみしろさんが海の幸あまのゆきをどんどんと運はんでくれる。

三十分さんじふぶんとしないうちにビールは日本酒にっぽんしゅに代かわり、石田氏いしだのトークは絶好調ぜつこうてうを迎むかえていた。あたしもだいぶ酔よっぱら  
って、<sup>⑥</sup>気きのおけない親戚しんせきと話わしているみたいになった。

「それで、模刻もくくつはお願いできるんですか？」

「そりゃ、うらの一存いちぞんではあかん。※だんか檀家総会だんかそうかいで相談さうだんせな」

「えーマジですかあ、でも大丈夫だいじょうぶなんですすよね？ ねっ」

石田氏いしだはふと酔眼すいがんを宙そらに据すえた。

「……まあ、いけるやろ。総会そうかい、ゆうても参加さんかするんはいつも十人じゅうにん足たりらずじゃからの。他の者もはめんどうがっってお任せ  
にしよる。毎回まいかい出てくるんは山田やまだのじいちゃん※と酒井さかいの後家ごうかさん、レイコさん……」

聞きおぼえのある名前なまえが出て、あたしは話わに割りこんだ。

「レイコさんっておばあちゃん、あれ、なんなんですか。ずいぶんなことを言いわれたんですけども？」

これに民代たみしろさんが答こたえた。

「礼子れいこさんはね、ご主人ごしゅじんと死しに別わかれて街まちから矢祭やまつりに帰かえってきになった人ひとなの。ちょっと偏屈へんくつでね」

数年前、無人になった実家を改築して一人住まいを始めたが、あまり近所づきあいもせず、日がな慶徳寺のベンチに座っているという。八十代なかばで、かつての幼なじみが誘っても、老人会の集まりなどに顔を出すことはない。なに慶徳寺の檀家総会だけは皆勤賞なので、なんと変わったばあさんだと近所の人は遠巻きに見ているらしい。

(中略)

(にわとり)

鶏の声で目が覚めた。田舎か。あ田舎だ。

離れの小さな洗面所で顔を洗い、スニーカーをつっかけて庭に出る。母屋ではまだ誰も起きていないようだ。まだ六時前で、あたりには薄青い闇が残っていた。

思いついて、慶徳寺の石段をのぼる。息が白い。

境内に出ると、本堂の前にぬかずいている人影が見えた。その場で立ち止まったが、気配に気づいたららしい人影は飛び上がったこちらを向いた。

⑧ 礼子さんだった。ぎよっとした顔であたしを凝視して、ふうと息をもらした。

「……まだいたのかい」

それだけ言うとかつかつかとベンチに向かい、あたしにあごをしゃくる。座れ、ってこと？ あたしはおずおずとベンチに近づき、礼子さんの隣となりに腰かけた。かすかに線香の匂においがする。

「見い」

声に頭を上げて、あたしは息をのんだ。木の間から海が見える。朝日が水面みなもを赤く照らし始めて、えもいわれぬ美しさだ。

「まるで極楽だろ」

「……ええ」

⑨「漁師をしていたうらの父さんは、この海で死んだ。初恋はつこいの人は、もっともっと南の海で死んだよ」  
「……………」

礼子さんはたんたん続けた。

「怖こわくて、憎にくい海やけえど、なんや知らん、ここで海を見てると、嬉うれしゆうになつてくるんで。仏さまのおかげやと思  
うんよ」

礼子さんの横顔は、別人のようにおだやかだった。

「うらにはここに、帰る場所がある、て。いつ死んでも大丈夫やって」

ちようどそのとき太陽が昇のぼって、海を黄金色こがねいろに染めた。錦にしきの帯のように輝かがく水面は、まるで人ならぬ者が通る道の  
ように見えた。息が浅あくなった。胸が苦しい。

「……………なんでえ。なんであんたが泣く？」

礼子さんが、たじろいだように聞いた。

「……………あたし、仏さまのことなんてわからなくて……………なのに生意気……………」

しゃくりあげるせいで、言葉がうまくつながらない。丸めた肩に、いつのまにか温かな手が置かれた。

「……………ええんよ、若い人はそれが当たり前やがな。うらも、うちの人を見送よってから初めて気づいたんじゃもの」

仏さまと在る暮らし、仏さまが寄よる辺へである暮らしを、あたしはこれまで想像したことがなかった。仏像がどんな思  
いでつくられ、どんな願いととも守られてきたのか、考えることもなく、ただ課題のために仏像を探してきた。誰に  
も負けない模刻⑩をしたい、自分の存在を知らしめたい、というつまらないエゴのために。

今はそれがただ恥ずかしかった。

「ええんよええんよ、あんたが真面目な子おやゆうのはわかったからの」

骨張った手で、礼子さんはいつまでもあたしの背中をさすってくれた。

(樹原 アンミツ 『東京藝大<sup>げいだい</sup> 仏さま研究室』より)

※ わいらあ——「私たち」の意。

うら——北陸地方の方言で「おら」「私」の意。

檀家——お寺を経済的に支援する家のこと。

後家——夫を亡くした女性。未亡人。

皆勤賞——欠席を全くしないこと。

★問題の中で指定する字数には、句読点、かつこ類をふくみません。

問 一——線部①「反射的につくり笑いした」とありますが、それはなぜだと考えられますか。その理由として最

も適切なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア レイコさんが所有する観音さまを模刻させてもらうためには、レイコさんに気に入られる必要があるから。

イ レイコさんが自分に対して良い印象を持っていないことを感じ取り、相手の警戒心を和らげようとしたから。

ウ 本堂に行って観音さまを見たいのにレイコさんにつかまってしまったため、早くこの場を切り上げようとしたから。

エ 自分が悪いことをしようとしていることをレイコさんに見ぬかれてしまい、その罪を見逃<sup>みのが</sup>してもらおうとしたから。

問 二 ——線部②「レイコさんは顔全体をぎゅっとしかめた」とありますが、それはなぜですか。その理由として

最も適切なものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

ア 変な格好の若者が、みよゆう妙なつくり笑いをしていることにいらだちを覚えたから。

イ 「もごく」と言いまちがえたのを「もこく」と専門用語に訂正ていせいされて腹が立ったから。

ウ 不真面目まじまじそうな若者が軽い気持ちで仏像を利用しようとしているようにしか思えなかったから。

エ 目の前の奇抜きばつな格好をした若者が口にする「東京」や「大学」という言葉に不信感いふたを抱いたから。

問 三 ——線部③「ごめんね、気にせんで」とありますが、なぜそのように言ったのですか。その理由として最も

適切なものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

ア 東京から来た「あたし」のことをあまり気にかけて、無責任に一人にしてしまったことを謝りたかったから。

イ 「あたし」がレイコさんに反論しようとしたところに、横から割って入ってしまったことを謝りたかったから。

ウ その場の状じょうきょう況からレイコさんが「あたし」に対して厳しいことを言ったのを察し、地元住民の一員として謝りたかったから。

エ レイコさんがみんなの嫌きらわれ者であることを隠かくしたために、何も知らず近寄った「あたし」に嫌いやな思いをさせてしまったことを謝りたかったから。

問 四 — 線部④「首をぶんぶん振るあたしをいなすように笑う」とありますが、このときの民代さんの心情として最も適切なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア 自分の能力に自信を持たずに落ちこむ「あたし」に心から同情し、応援しているよとはげまそうと

思っている。  
イ こちらの言うことを聞かずに、ただ首を振って嫌がるだけの「あたし」の幼さにショックを感じて

しまっている。  
ウ その日のうちに帰ると言い張る「あたし」の遠慮をほほえましく思いながら、優しく受け流している。

エ 夕方にはどうしても帰りたいという「あたし」の積極性のなさに憤りを感じつつも、仕方のないことだと諦めてしまっている。

問 五 — 線部⑤「寒さに音を上げ石田氏宅にもどった」とありますが、「あたし」はこれまで何をしていたのですか。本文中の言葉を使って十五字程度で説明しなさい。

問 六 — 線部⑥「気のおけない」、⑦「ぬかずいている」の意味として最も適切なものをそれぞれ後のア～エから選び、記号で答えなさい。

⑥ 「気のおけない」

ア 打ち解けられない

イ 遠慮がいらぬ

ウ 注意力がぬ

エ 信用できぬ

⑦ 「ぬかずいている」

- ア こちらをにらんでいる      イ そっと立ち上がっている  
ウ 床ゆかに座りこんでいる      エ 深くお辞儀じぎをしている

問七

——線部⑧「礼子さん」とありますが、「レイコさん」という表記だったのがここから変化しています。この変化から読み取れることとして最も適切なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア 知り合ってまだ間もなかったので「レイコさん」のことを警戒していたが、民代からさまざまな情報ほうを聞き、親近感が湧わいたということ。

イ 民代から「レイコさん」のことを聞くまでは素性の知れない人物であったが、民代から話を聞き、どんな人物であるかを知ったということ。

ウ 初めて会ったときは「レイコさん」に対して嫌悪感けんおを抱いていたが、どんな人物であるかを民代から聞き、好意を持つようになったということ。

エ 「レイコさん」から模刻や自分自身を否定するようなことを言われて反抗心はんこうを抱いていたが、夫に先立たれて一人であると知り、同情するようになったということ。

問題は次のページに続きます。

問 八 — 線部⑨「……………」とありますが、このときの「あたし」の様子の説明として最も適切なものを次のア

〜エから選び、記号で答えなさい。

ア 思いがけない話の展開に言葉を失っている。

イ 大事な話の腰を折らないように黙っている。

ウ 仏像についての話を興味深く聴き入っている。

エ 正しい答えを返事できるかどうか悩んでいる。

問 九 — 線部⑩「それ」が指し示す内容を、本文中の言葉を使って四十字以内で説明しなさい。

問 十 本文の特徴とくちょうについての説明として最も適切なものを次のア〜エから選び、記号で答えなさい。

ア 仏教や寺に関する用語ずいごが随所に展開されてはいるが、一文が短く、会話も軽妙けいみょうなテンポで進むため

読みやすくなっている。

イ 登場人物それぞれの内面や心情の説明を丁寧ていねいに行うことで、「仏さま」に懸かけるそれぞれの思いが強

調されている。

ウ 「仏」の世界観をはっきりと提示するために、登場人物それぞれの心情や気持ちを表す言葉よりも、

あえて動作を説明する言葉を用いている。

エ 「えーマジですかあ」や「……………なんでえ。」のようなくだけた言い回しを多く用いることによって、

読者に「仏さま」への親近感を持たせようとしている。



凡例
2点
3点
5点
8点

受験番号				
アルファベット	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
				氏名
				得点

問一 ① きょうど ② ひたい ③ はそん ④ さっした ⑤ ちよぞうこ

⑥ 録音 ⑦ 祝 い ⑧ 生徒 ⑨ 延長 ⑩ 蒸し

問二 (1) ① イ ② ア (2) イ (3) ア

問一 ア 問二 ア 問三 エ 問四 他の花でできる

夏の間は根だけ残して地面の下で夏眠し、他の植物が生い茂る前の春に花を咲かせて種子を残す点。

問六 イ 問七 B イ C オ

問八 (省略)

問九 ウ

問一 イ 問二 ウ 問三 ウ 問四 ウ

問五 一人で本堂で観音さまを見つけた。

問六 ⑥ イ ⑦ エ 問七 イ 問八 ア

仏さまが寄る辺である暮らした。想像せず、だ自分のためだけに仏像を探してきたこと。た

問十 ア